

方針 10 和太鼓と民謡・民舞のネットワーク化とシステム化の促進する専門家との協力協同、全国講習会の充実、郷土センターの設立、郷土教育者の組織化・メニュー化、和太鼓と民舞のまつりの全国展開プラン、まちおこし、まちづくりにつながる活動を計画を持ってすすめる。

〔郷土のうたと踊り〕

ふくい・北陸祭典全国郷土合同として発表した「響」には、全国から約20人が参加し、八つ杉権現太鼓保存会をはじめとする福井太鼓連盟のリードで合同演奏を成功させることができた。うたごえの全国合同としては、演奏時間が2分足らずの短いこともあって東日本・兵庫での参加に留まったことが今後の課題として残った。

全国講習会は、本年度も西日本では開くことができず、東日本では約200人の参加で盛大に行われた。

地域での郷土のまつりは、上野水上音楽堂で恒例となった「第9回江戸やっこまつり」、川崎での「わくわくコンサート」、西播地域で毎年開催されている「西播和太鼓フェスティバル」、神戸で初めて開かれた「伊藤多喜雄とつくる南中ソーラン&和太鼓まつり」(100人太鼓と300人南中ソーラン)等々多彩な内容で取り組まれている。07年3月には兵庫県和太鼓と民舞のまつり(加古川)が開催予定。

プロ集団との連帯、協同も強化されており、川崎での荒馬座、調布・姫路での田楽座公演成功の大きな役割をうたごえが担っている。また、神戸の太鼓衆団輪田鼓では伊藤多喜雄氏をはじめ狂言役者の茂山千之丞氏らとの共演を成功させている。「ロックソーラン」や「エイサー」は教育現場をはじめ、全国にひろがっている。

東日本では、郷土部員が中心となり実行委員会を立ち上げ、連帯して通年のとりくみを成功させている。この経験を発展させ、うたごえのめざす民族芸能のあり方を深めながら、全国的なネットワークづくり、創造的連帯、専門家との協同、和太鼓と民舞のまつりの全国展開プラン、郷土センター設立などを視野に入れた取り組みが必要とされている。